

科目名	西洋政治思想史	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法律学科	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	History of Western Political Thought	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	なかむら いつはる	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	中村 逸春	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	この授業では、古代ギリシャから近代にかけてのさまざまな思想家たちの主張を検討し、西洋政治思想の歴史について概観します。			
到達目標	第一に、授業において取り上げる思想家たちの主張を理解すること、第二に、西洋政治思想の歴史的な流れを把握すること、第三に、現代の政治的諸問題について、各々の思想家であったらどう考えるかという観点から考察できるようになること。			
授業概要	この授業では、古代ギリシャから近代にかけての西洋政治思想の歴史について、さまざまな思想家たちのテキストを社会的背景に留意しつつ検討します。なお、本授業においては、西洋政治思想の歴史について基礎的知識を習得するだけでなく、現代の政治的諸問題について理論的に考える力を身に付けることも目的としています。授業の詳細については、授業計画を参照。			
授業計画				
第1回	イントロダクション			
第2回	古代ギリシャの政治と歴史—アテナイとスパルタ			
第3回	古代ギリシャの政治思想①—ソクラテスとプラトン			
第4回	古代ギリシャの政治思想②—プラトン『国家』を中心に			
第5回	古代ギリシャの政治思想③—アリストテレス『政治学』を中心に			
第6回	古代ローマの政治思想—ストア派、キケロ、セネカ			
第7回	キリスト教と政治思想—カトリック教会、両剣論、叙任権闘争			
第8回	講義の復習と質疑応答			
第9回	中世盛期の政治思想—12世紀ルネサンス、スコラ哲学、トマス・アクィナス			
第10回	ルネサンスの政治思想—マキアヴェッリ『君主論』を中心に			
第11回	宗教改革の政治思想①—ルター、教会批判、万人祭司説			
第12回	宗教改革の政治思想②—カルヴァン、予定説、資本主義			
第13回	宗教内乱と政治思想①—ユグノー、ポリティーク派、ボダン			
第14回	宗教内乱と政治思想②—イギリスの事例			
第15回	講義の総括			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	何度か小テストを行うので、次回の講義までにノート、レジュメ、資料を読み返し、復習しておくこと。(2.0時間程度) 政治に関する新聞等の記事に日々目を通しておくこと。(2.0時間程度)			
履修条件 受講のルール	高校で世界史または倫理の授業を受けていれば理解しやすいと思われるが、必須の条件ではありません。なお、講義中の私語は禁じます(退出を求める場合があります)。			
テキスト	教科書は指定しません。			
参考文献・資料	宇野重規『西洋政治思想史』(有斐閣、2013年)。その他の参考文献については、その都度紹介します。			
成績評価の方法	小テスト(30%)、レポート等(30%)、最終試験(40%)によって、授業内容の理解度をみて評価します。 ※なお、出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。			

オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30 (これ以外の時間帯に面会を求める場合は、メール等で事前にアポをとること)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	歴史や思想を学ぶことで、政治についてより深く理解することが可能となります。政治に関心がある人、歴史や哲学に興味のある人にお勧めです。